地　域　経　済

REGIONAL ECONOMY

第４号

２０００.４

和歌山地域経済研究機構

〈構成〉和歌山大学経済学部
和歌山商工会議所
(財)和歌山社会経済研究所

〒640-8567 和歌山市西汀丁３６
和歌山商工会議所内

TEL.073-422-1111
FAX.073-433-0543

目　　次

和歌山の一層の活性化と発展を目指して！ …… 1

全ての人がベンチャーになれる …… 2

平成 11 年度事業中間報告

１．自主研究「若者に魅力ある都市創造、都市環境づくりについて」 …… 4

２．研究会「物流戦略研究会」 …… 5

３．研究会「都市創造戦略研究会」 …… 7

４．シンポジウム「女性の目からみた《和歌山の魅力再発見》」 …… 9

平成 12 年度事業計画 …… 11

研究成果一覧 …… 12

理事会メンバー …… 12

和歌山の一層の活性化と発展を目指して！

和歌山地域経済研究機構

理事長　　小　田　　章

和歌山地域経済研究機構も、設立してはや５年目を迎えようとしています。この間、巻末にあるような研究を行うことを通じて少しは地域の活性化に貢献できたのではないかと思っています。

依然として、日本社会全体は閉塞状況にあり、その打開のために種々の施策が講じられています。にもかかわらず、それほど明るい兆しが見えてきません。同様に、和歌山も残念ながら沈滞傾向が続いていると言わざるを得ません。ただ、和歌山には新たな動きが見え始めております。経済・産業の復活のために県・市それに会議所はじめ各経済団体が起業活動を促すための支援活動を活発化させていますし、また商店街の活性化の動きもでてきています。さらに、県立大学や市立大学設置の構想も発表され、わずかではありますが明るさが見え始めています。やっと種蒔きの時期が過ぎ、発芽の準備をし始めているように思います。それゆえ、この機を逃さず、さらに発芽を促し、育苗し、実を結実できるようにせねばなりません。そのためには、種々の機関が協力し、そして地域住民の皆さんの和歌山を愛する気持ちを高揚して行かねばなりません。本研究機構もこうした動きに歩調を合わせ、新たな和歌山の創造に向けて行政や経済界に積極的に新たな提案をしてまいりたいと思っております。

残念ながら、本研究機構は、地域において未だ十分に認知された機関とは言えません。したがって、皆様に本研究機構の存在を知っていただき、大いに活用していただくとともに地域の方々とともに地域の活性化と発展に少しでもお役に立てるよう一意専心してまいります。今後とも本研究機構の研究に注目し、期待していただければと思っております。

全ての人がベンチャーになれる

株式会社　紀陽銀行
常務取締役　石　原　正　之

先般、和歌山県が主催された「きのくにベンチャーランドフォーラム～新世紀の産業創造～」に聴衆として参加した。このフォーラムは、地域に蓄積されてきた技術と資源を活用し、新しい市場ニーズや技術と組合せながら、新事業の創出や支援の在り方を探るとの趣旨で開かれた。パネリストは、島精機製作所の島社長、和歌山大学の辻先生、関西ＴＬＯの中村氏で、それぞれの立場からのご意見は、ご自分の豊かな経験に裏打ちされており説得力があった。

この討論の中で、ベンチャーを育てるためには、将来の起業家となる人に早くから、出来れば少年期から才能を引出してやり、専門性を磨かせ、大学では既にその分野ではひとかどの人物にしておくことの重要性が指摘されていた。これは会場の参加者全員の共通認識のようでもあった。確かに、これまでの成功者の例や経験談を聞くにつけ、感性と知性に優れた特別の人がベンチャーになるという論は有力であり、一理はあると思う。しかしそうであるならば、ベンチャーは運の良い才能を持った人にのみ宿るということになりかねない。事実、会場では、多くの有為の青少年が県外へ流出していく和歌山のような教育環境では、ベンチャーは育たないと懸念されている方もおられた。

果してこの論は妥当なのだろうか。ＩＴ革命が進展し、時代の変化が極めて激しい現在では、私はベンチャーは一部の人に任すのではなく、誰もがかかわり合うことが必要であると考えている。起業家、経営者、出資者、そしてこれらを支える市民一人一人がベンチャーの育成・支援にかかわっている、いやむしろ全ての人が、志があればベンチャーになるチャンスがあると考える意識改革が必要である。誰か運の良い特別の人がベンチャーになるというムードがある限り、日本では裾野の広いベンチャーランドは育ちにくいのではないかと危惧する。

実は、私が所属する和歌山経済同友会でも、４年前に「次なる和歌山の活力を求めて」と題して、新産業の創出・育成を通じて地域の活性化を図るべきとの提言書を出した。しかしこの４年間で、当地から株式公開まで成長した企業

は一社のみである。今になって、提言書だけでは言い放しになるという自責の念にかられている。もちろん、実践に移されたグループもある。和歌山大学の小田先生を中心に和歌山地域経済研究機構が３年前に立ち上げられた。同機構では、毎年各種プロジェクトの調査研究が行われているが、研究成果の実現化を強く期待したい。

私は、上に述べたように全ての人がベンチャーにかかわり、京都のようにベンチャーの点が面に広がっていくことを願い、次の三つの提案をしたい。第１は、技術を持つ起業家を経営者に育てるための学校、あるいは塾のようなものを創ること。技術があっても事業化が成立するには、ベンチャーに経営者としての器量が備わる必要があると言われているが、そうした資質を身につけさせる場がいるのではないだろうか。第２は、ベンチャーを目利きするシステムを拡充すること。和歌山にも私の知る限り、気概のある十数社の中小企業が株式の公開を前提として経営戦略を考えておられる。これらの企業を客観的に格付けできるような制度がほしい。少し視点は違うが、県のきのくにベンチャープランコンテストにみられるようにその萌芽はある。安心してリスクテイクできる基準としての格付けができれば、いわゆるエンジェルと呼ばれる出資者はもっと出てくると思われる。第３は、和歌山にベンチャーに関しての「反響板」になる人（ベンチャープランナーとでも呼ぼうか）を少なくとも５人選ぶこと。自然とそういう人望のある人が出てくることが望ましいが、狙いは、何事もスピードが大切である訳で、ベンチャーについてその人に相談するとこだまが反響するように幅広い応援が受けられるというイメージである。これらの提案は、まだ私の思いつきにすぎないが、既に和歌山に存在するのかも知れない。先達の方々から是非、ご意見なりご指導を頂戴したいと思う。

古来から、紀州人は「現在に対する強い不満とその不満のはけ口に方向を与えることのできた才覚と力量がある」（北野栄三著、『メディアの人々』206 頁より）と言われている。地域をおおう閉塞感を払拭し、再び活性化に向かうためには、ベンチャービジネスに代表される新産業の芽を育てることが対応策の一つであることは論をまたない。それは誰か特別の人がやってくれるのではなく、和歌山に生活する全ての人がかかわり合って、知恵と工夫を重ねていくことが成功への近道であると信じている。

平成１１年度事業中間報告

１．自主研究

若者に魅力ある都市創造、都市環境づくりについて

和歌山大学経済学部
教　授　　小　田　　章

本研究は平成 11 年度事業として立ち上げたが、平成 12 年度の継続事業として取り組むことにした。

和歌山県における人口動態の特徴として、総人口の横ばい傾向、若者層の県外流出、そして高齢化の促進等が挙げられる。特に、若者層の県外流出は和歌山地域の活力低下をもたらす原因になっている。若者の県外流出が惹起する因としては、和歌山には高等教育機関（大学）が少ないこと、雇用機会が少ないこと等があげられる。従って、こうした問題を解決することが、若者の県内残留を可能にすることにつながっていく。しかしそれだけでは十分と言えない。県内の若者の残留率を高めるとともに必要なことは、県外から若者を誘導できるように都市創造を考えてゆくことが必要になる。

本研究は、こうした視点に立って、一体若者にとってどのような都市が魅力的なのか、そして和歌山地域が有する自然・社会資源を活用して、そうした都市づくりが可能かどうかを検討しようとするものである。

そのためにこれまで「若者にとって魅力ある都市」について、議論を深めてきたが、その中で、先行地域を参照にしながらも、和歌山独自の都市づくりを目指すことが不可欠であるという結論に至った。そこで、国内外の先行地域を視察し、それをベースに新しく、魅力的な都市づくりを考えていくことにしている。現時点では、和歌山の自然・社会の特殊性を考慮しながら、国外では、アメリカ、ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリア等の街を視察し、それをヒントに新たな都市創造の在り方を探ることにした。これからの時代は、定住と交流とのバランスのとれた都市づくりが求められていくと思われる。若い世代層には交流を、中高年世代には定住を中心とした都市創造を検討し、そのためのモデルをつくり、行政等に提言してゆきたい。

2．研究会「物流戦略研究会」

物流戦略研究会の概要と今後の方向

（財）和歌山社会経済研究所
研究部長　糀　谷　昭　治

1．はじめに

和歌山地域経済研究機構は、H11～H13 年度、すなわち、20 世紀－ミレニアム－21 世紀にかかる記念すべき３年間の中心研究テーマとして「南近畿全般の総合物流戦略」を選び、この研究組織として「物流戦略研究会」を立ち上げ、昨年度下期から研究に着手、本５月には第１回一泊研究会(第５回研究会)を開催する運びとなっている。今後、行政・民間企業などとの連携体制も整備強化し、本格展開を図る予定。今回は、本物流戦略研究会の概要と今後の方向について報告するものである。

2．背景と目的

和歌山を中心とした南近畿地域は、太平洋新国土軸の中核を形成するとともに、大阪湾ベイフロンティア構想のゲートウェイに位置し、重要拠点を占める。特に、第二阪和道・紀淡連絡道路・京奈和自動車道・近畿自動車道の高規格道路が 2010 年～2020 年にかけて順次完成して行くと、本地域は東西・南北に結ばれ、陸上輸送の結節点となる。さらに、現在進められている関西国際空港・和歌山下津港の増強整備計画も、2010 年～2020 年にかけて完成の予定である。この様に本地域は、世界にも開かれた陸・海・空の結節点となり、南近畿のみならず西日本さらには世界各国と超広域的に人・物・金・情報さらには文化の一大交流拠点を形成する大きな可能性を秘めている。

この一大交流拠点形成を実現するためには、人・物・金などそれぞれについて戦略的な施策を必要とするが、本研究会はベースとなる「物」すなわち「物流拠点形成」についての基本戦略、本地域の具体的な活性化施策を研究・提言する。

３．研究テーマ：この項で言う将来は「2010 年および 2020 年」とする

（1）現状の陸・海・空の各物流実態と将来の推計

（2）将来想定される陸・海・空の交通ネットワークおよび物流ネットワークと問題点。
計画されているもの以外に、必要な物流基盤
（ex 和歌山港⇔高速道路間の高規格道路）

（3）和歌山下津港の位置づけ(他港との競争力)と将来構想

（4）近畿全域の物流拠点の調査と和歌山地区への創設の可能性(創設のための条件)および具体的な創設地　など

（5）その他

４．研究体制

研究会座長 小田　章	和歌山大学	今井武久・佐々木壮太郎・大津正和・橋本貴子
	和歌山商工会議所	坂口慶直・西岡安雄・上田賢司・金谷好泰
	社会経済研究所	鈴木　健・糀谷昭治・赤坂武彦
	行政関係	県総合交通政策課 etc・市交通政策室 etc
	民間企業	日本通運 etc　物流・流通関係企業

５．研究状況と今後の方向

現状～4 月、4 回の研究会では、メンバーリング・物流に関するそれぞれの意見交換・基本的な進め方・鳥取県における港湾物流の強化事例研究･民間関連企業からの問題点聴取・行政の今後の方針聴取などを実施してきた。

次回は、三和総研の物流専門研究員より和歌山地区の実物流実態量をベースにした物流分析方法・問題点の把握方法・解決の施策など基本手法の一泊研究会を実施する。

その後、具体的な研究項目と研究担当・スケジュールを調整、決定し、計画的かつ精力的に研究を進めてゆくことにしている。

３．研究会「都市創造戦略研究会」

都市創造戦略研究会について

和歌山大学経済学部
教 授 大 泉 英 次

都市創造戦略研究会は、1999 年度より和歌山地域経済研究機構に設けられているものである。地域経済研究機構の研究活動は年度毎のプロジェクト研究を基本としているが、都市創造戦略研究会はこれとはやや性格を異にしている。そこでまず、この研究会が発足したいきさつを紹介しておきたい。

地域経済研究機構の平成 10 年度プロジェクト研究の１つとして『和歌山市の高次都市機能』（平成 11 年 11 月）が刊行された。この報告書は和歌山市の高次都市機能集積に向けた市民アンケート調査を主たる内容としている。その趣旨は、和歌山市を活力に富む魅力的な都市としていくための戦略づくりをめざして、まずその基礎データをえようというものであった。都市創造戦略研究会はこの研究活動を継続して発展させる目的で設置された。

新しい都市創造の戦略づくりという課題を単年度のプロジェクト研究によって達成することは難しい。そこで年度毎の研究とは別に中期的なプロジェクトを設け、課題の達成をめざすべきであるという判断のもと、都市創造戦略研究会が設置されたのである。

諸般の事情で立ち上げが遅れ、昨年 12 月に第 1 回研究会を開催した。和歌山社会経済研究所研究員（当時）の田端浩二氏をゲストとしてお招きし、ヨーロッパ諸都市（ロンドン、ローテンブルク、パリ）におけるまちづくりの視察の成果について御報告をいただいた。都市内交通体系の整備や居住環境整備、さらには商業・観光業の活性化等について、ヨーロッパの先進事例の興味深い御紹介があり、研究会メンバーとしては大いに啓発されたしだいである。

研究会の当面の活動としては、適宜ゲストをお招きして報告をいただくというスタイルをとっている。和歌山における都市づくりを幅広い視野にたって考えていくという

趣旨で研究を積み重ねていきたい。また、御報告の内容によっては、研究会メンバーだけでなく、ご関心の向きに広く参加を呼びかけることも考えている。

地域経済研究機構は和歌山商工会議所・和歌山社会経済研究所・和歌山大学経済学部の三機関で組織されており、各研究プロジェクトはこれら三機関に所属するメンバーから構成されるが、必要に応じ広く各界の方々も御参加、御協力をも得ていきたいものである。都市創造戦略研究会としては、さしあたり上記のような運営スタイルをとることで、多方面にわたる方々の御参加、御協力を得たいと考えている。

4．シンポジウム

「女性の目から見た≪和歌山の魅力再発見≫」

和歌山大学経済学部
助　手　橋　本　貴　子

2000 年（平成 12 年）3 月 11 日（土）、和歌山大学生涯学習教育研究センターで、和歌山大学経済学部創立 50 周年記念講演とシンポジウムが行われました。（主催：和歌山大学経済学部、後援：和歌山地域経済研究機構）

第１部では、和歌山県企画部企画総務課長の渡辺由美子さんが、「≪和歌山の魅力≫って、なんだろう～これからの和歌山を考える～」と題して基調講演を行いました。

その中で渡辺さんは、これまでに経験したことをふまえながら、平成９年４月からの和歌山での仕事や日常生活を振り返り、和歌山の印象を語られました。和歌山には、温暖な気候と豊かな自然があるが、豊かであるからこそハングリー精神に欠けるのではないか、もっとＰＲの仕方を工夫すればよいのではないかと和歌山の弱さを指摘されました。

これからの和歌山については、元気な社会の条件として高齢者、子ども、女性のそれぞれが元気であることをあげ、今の社会の現状を背景にわかりやすくお話いただきました。　最後に、渡辺さんは、自分たちの地域をよく知り大切にする心、和歌山にもっと自信を持って欲しいと述べられ、約１時間にわたる基調講演を終えました。

第２部では、和歌山社会経済研究所研究員の谷奈々さんをコーディネーターに迎え、「女性の目から見た≪和歌山の魅力再発見≫」と題したシンポジウムが行われ、パネリストとして参加した５人の女性がそれぞれの立場から意見を述べました。

最初に、パネリスト５人が自己紹介を兼ねて、それぞれ和歌山との関わりについて述べ、次に、和歌山の魅力で忘れられていたり、軽視されていることについて意見を述べました。和歌山の魅力としてあげられたことは、和歌山県の豊かな自然であり、そこに暮らす人々でした。パネリス

トには、お店を経営されている方や情報通信の最先端で働く方や大学院に学ぶ方がおられ、仕事や生活を通じて感じる和歌山についても意見が出されました。

最後に、和歌山の魅力創造について意見が述べられ、全国に誇ることができるものをつくることやメディアを利用した和歌山のＰＲなどが提案されました。

和歌山が大好きな女性ばかりで行われた今回のシンポジウム、観衆は若干少なめでしたが、和歌山の魅力をもっとたくさんの方に知っていただき、和歌山が発展することを願っています。

和歌山大学経済学部創立 50 周年記念講演＆シンポジウム

第１部　基調講演　「《和歌山の魅力》って、なんだろう」
講師：渡辺由美子（和歌山県企画部企画総務課長）

第２部 シンポジウム　「女性の目から見た《和歌山の魅力再発見》」
コーディネーター：谷　　奈々
（和歌山社会経済研究所研究員）
パネリスト：渡辺由美子
（和歌山県企画部企画総務課長）
森下倭文子
（森下石油（株）専務取締役）
宮田　栄子
（NTT 移動通信網(株)サービス企画部チーフアドバイザ）
野嶋　廣子　（和歌山大学大学院生）
橋本　貴子（和歌山大学経済学部助手）

平成12年度事業計画

1．研究事業

＜自主研究＞

1．ベンチャービジネス事例研究

2．若者に魅力ある都市創造、都市環境づくりについて

＜継続研究＞

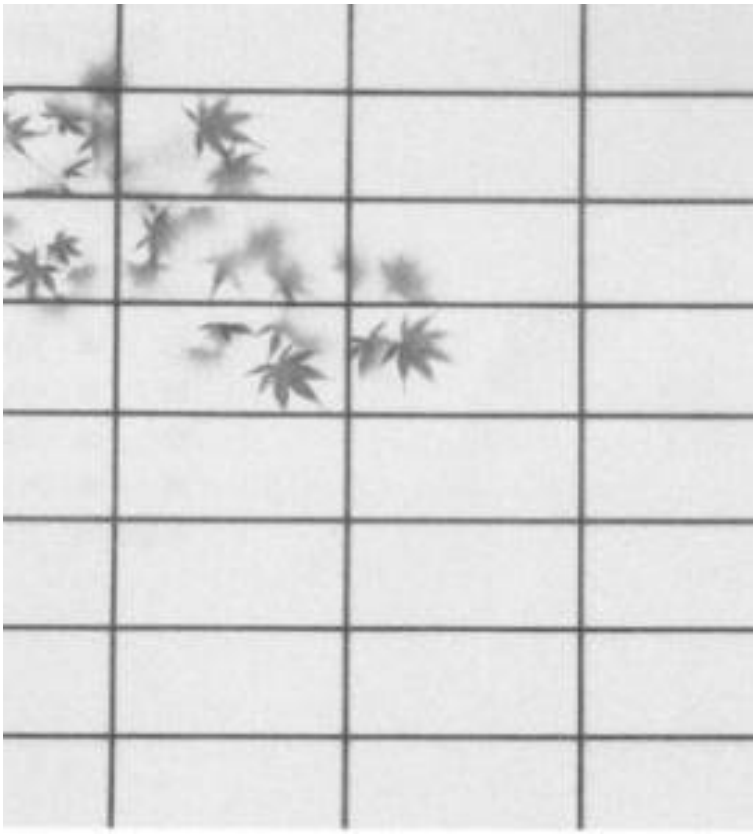
1．物流戦略研究会

2．都市創造戦略研究会

3．観光戦略研究会

2．その他

ホームページの作成



研　究　成　果　一　覧

○平成９年度

No. 1　提言　紀淡連絡道路を実現し和歌山地域の活性化をはかるためのグランドデザイン
（和歌山商工会議所　受託研究）

提言　このチャンスを活かそう　紀淡連絡道路を実現し和歌山地域の活性化
（グランドデザイン概要版）

No. 2　和歌山地域産業の市場構造

No. 3　ニーズの多様化と規制緩和の進展に伴う経営戦略－和歌山企業の活性化を目指して－

○平成 10 年度

No. 4　和歌山市民・近隣地域住民の消費動向と和歌山市小売商業の課題

No. 5　和歌山市の高次都市機能

No. 6　和歌山県における産業構造の変化と雇用動向

和歌山地域経済研究機構　理事会メンバー

（平成 12 年３月 31 日現在）

【理事会】

理事長	小田　章	和歌山大学経済学部	教授
理事	牧野　源泉	和歌山大学経済計測研究所	所長
理事	山田　良次	和歌山大学経済研究所	理事長
理事	中村　脇二	和歌山社会経済研究所	専務理事
理事	崎山　頌一	和歌山社会経済研究所	研究部長
理事	尾崎　武久	和歌山商工会議所	専務理事
理事	坂口　慶直	和歌山商工会議所	事務局長
名誉顧問	佐武　廸生	和歌山商工会議所	前専務理事